

平成 27 年度第 11 回青森市子ども会議開催概要

- 1 日時 平成 28 年 1 月 30 日（土） 12 時 30 分～16 時 00 分
- 2 場所 青森市総合福祉センター2 階 大集会室
- 3 出席者 平成 27 年度青森市子ども会議委員 9 名（欠席者 19 名）
平成 27 年度青森市子どもサポーター1 名（欠席者 5 名）
青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会委員 7 名
事務局 10 名
- 4 活動内容 前半：児童福祉専門分科会との合同会議
後半：今後の子ども会議の活動と「他市との交流活動」についての話し合い
- 5 開催概要

11 月 29 日に開催されたイベント以来の活動となった今回の子ども会議は、青森市内に住むすべての子どもやその子育て家庭などを対象に青森市が策定する「(仮称) 青森市子ども総合計画」について、子ども会議委員からの意見や提案をうかがうため、「児童福祉専門分科会」の委員の皆さんとの合同会議を開催しました。そして後半には、これからの子ども会議の活動内容などについて、皆さんからの意見などをもらう時間を設けました。



児童福祉専門分科会との合同会議

まずはじめに、今年度初めての合同会議ということで、皆さんから自己紹介をしていただきました。

児童福祉専門分科会委員の自己紹介

- ・皆さんこんにちは。保育園、幼稚園関係の仕事をしています。今日は、子どもの計画というものを作っていくために、皆さんの意見を聞きたいと思います。よろしくお願いします。
- ・こんにちは。私は弁護士をしています。あまり仕事上皆さんのような年代の方と接する機会がありませんので、今日はいいい機会ですので、皆さんのご意見を聞かせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
- ・こんにちは。青森市内の中学校に勤務しております。この会議は今回が初めてですので、たくさん皆さんの考えを聞きたいと思います。今日はよろしくお願いします。



子ども会議委員・子どもサポーターの自己紹介

- ・子ども会議に参加して、年々、楽しいと感じています。今回は青森市が、子どもにとって、そして大人の皆さんも楽しいと思えるような計画を立てられるようにしていけたらと思っています。よろしくお願いします。
- ・今年初めて子ども会議委員になって、分からないこともありました。ねぶた祭りなどいろいろなことに参加し、たくさんの人と触れ合うことができるとても楽しいです。今日はよろしくお願いします。
- ・子どもサポーターをやっています。サポーターは4年目ですが、年々新しいことをやっていて楽しいなと思っています。これからも進化していくために、今回の会議を有意義なものにできたらと思っています。今日はよろしくお願いします。
- ・中学校3年から子ども会議に参加して3年目になります。中学校のときは、子ども会議や権利条例について、周りの人にうまく説明できなかったのですが、3年目になって、少しずつ回りの友達や先生方に説明できるようになったり、イベントのチラシなどでなんとなく知っているとか見たことがあるということを実感でき、子ども会議や子どもの権利条例が少しずつでも広まっているんだと感じ、嬉しく思っています。



次に、計画の案件に入る前に、事務局を含めた全員参加でアイスブレイクタイムを設けました。

アイスブレイクタイムでは、4つのコーナーに「とてもYES」、「とてもNO」、「どちらかと言えばYES」、「どちらかと言えばNO」と書かれたフリップボードが置かれ、司会からの質問に対し移動して答えるというゲームを行いました。「私は青森市の好きなおところが3つ以上ある」や「ずっと青森市で暮らしたいと思う」などの質問が出され、中には意外な解答をする方もいたりして、子ども会議委員と分科会委員の皆さんはお互いに打ち解けあっていました。



続いて、本日の案件である「(仮称) 青森市子ども総合計画」について、事務局から説明を受

けた後、子ども会議委員と分科会委員の混合で2グループに分かれ、計画の中でも、子どもに直接関わる、

- (1) 子どもにとって大切な権利が保障される環境づくりについて
- (2) 子どもの健やかで心豊かな育ちへの支援について
- (3) 子どもが安心して暮らせる環境の整備について
- (4) 『(仮称)青森市子ども総合計画』の名称について

の4点について、話し合いをしてもらい、まとまった意見を各グループの代表の子ども会議委員から意見発表をしてもらいました。

子ども会議委員からの意見発表

(1) 子どもにとって大切な権利が保障される環境づくりについて

- ・子どもの権利条例を多くの子どもたちに知ってもらうために、学級活動や総合の授業の中で、子どもたちに教えていけばいいと思う。文化祭で子どもの権利に関する展示をして、生徒や先生に発表すればいいと思う。
- ・子どもの権利条例を多くの子どもたちに知ってもらうために、ポスターの絵でひきつけたり、先生の勉強会を行えばいいと思う。また、学校で、子どもの権利に関するチラシを紙飛行機にする生徒がいるので、逆にそれを利用して、紙飛行機の作り方を載せて、作った紙飛行機にメッセージを書いてお知らせすればいいと思う。
- ・毎年やっているイベントで、子どもたちとのふれあいの場を設ければいいと思う。
- ・子どもたちの意見をいろいろなところで活かしていくためには、身近にいる大人である先生と子どもが意見を交わす場を設ければいいと思う。



(2) 子どもの健やかで心豊かな育ちへの支援について

- ・ゲームセンターがあればいいと思う。また、子どもが気軽に遊べる公園などで、小学校6年生は遊べるが4年生は遊べないというような上下関係をなくしたほうがいいと思う。また、関連して、公園などでのマナーを教えるために、子どもの権利条例を利用すればいいのではないか。
- ・もう少し規制を緩和し、学区外にも自由に出られるようにしてほしい。



- ・地域のごみ拾い活動や川の清掃、ねぶた囃子などで地域を盛り上げていけばいいと思う。
- ・地域でのあいさつ運動や雪かき、エコキャップ運動を地域単位で行えば、もっと良くなるのではないかな。

(3) 子どもが安心して安心して暮らせる環境の整備について

- ・冬快適に過ごすために、学校周辺に雪がたまっているので、学校の委員会などで雪かきをすればいいと思う。
- ・新しい学校は、廊下にも暖房がついているのに、古い学校は、大きいストーブをいちいち出さないと温まらない。新しい学校の子は、自由に遊べるのに、古い学校の子は、寒い思いをしながら我慢して遊ばなければいけないので、暖房の格差をなくしてほしい。
- ・先生がセーターなどを着ているのに、なぜ生徒は着てはいけないのか。学校全体を快適に過ごせるようにしてほしい。
- ・冬道で滑ったり転んだりして時間がかかるので、外に出ないという人も出てくる。
- ・通学路が狭く、雪で滑ったりする危険性があるので、地域を含めて通学路の除雪などを整備してもらいたい。
- ・個人情報などの危険性があるので、学校でのサイバー犯罪の対策教室だけでは足りないと思う。
- ・学校単位で講演会などを行っているが、それでも問題は出てくるので、写真や個人情報などが、一度広まると取り返しのつかないことになるということを、スマートフォンやインターネットを使わせる立場である親が、子どもにしっかりとコミュニケーションをとって対策することが一番ではないかな。



(4) 『(仮称) 青森市子ども総合計画』の名称について

- ・「計画」よりは「プラン」の方が分かりやすい。また、「大作戦」という名称の付け方もあるのではないかな。
- ・あえて名称を漢字だけにして難しくすれば、見逃してしまう人も目を向けるのではないかな。

最後に、児童福祉専門分科会委員の皆さんから子どもたちの意見に関する感想をいただきました。

分科会委員からの感想

- ・いろいろな意見が出て、とても活発な会議だったと思います。とても参考になりました。
- ・小中高生の子どもたちと接する機会がほとんどなく、今日は、子どもたちがどのようなことを考えているのか、すごく楽しみにしていました。参加させていただき、子どもたちの考えていることを知ることができ、とても楽しい会議でした。
- ・子ども側の意見を聞くことができ、とても参考になりました。子どもの権利条例について、条例の使い方が分からないから関心がないのではないかという意見や、大人や先生が理解していないからあまり子どもに広がっていないので、先生に対して生徒が授業をすればいいのではないかという意見など、当事者である子どもならではの意見だと思いました。
- ・久しぶりに小中高生の子どもたちと話をし、学校にはいろいろなことがあるということをも改めて聞くことができたので、少しずつ力になっていけたらと考えています。
- ・子どもたちから建設的な意見がたくさん出て驚いた。非常に立派だと思った。意見発表では出ていなかったが、冬をどうしたら楽しく過ごせるかというところで、子どもたちが雪を楽しむ方法を知らないで、それを伝えてくれる人がいればいいという意見が出て、なるほどと思いました。
- ・子どもたちはボランティアをしたことがあると思うが、今後も小さなことからでもいいので、どんどん地域の中でボランティア活動などを進めていただきたいです。
- ・子ども会議のメンバーと合同でディスカッションでき、すごく嬉しかったです。この計画をうまく機能させるために、これからもよろしくお願いします。



以上で、前半の合同会議は終了しました。今回の会議でいただいた意見を踏まえながら、計画の策定を進めることとしています。

今後の子ども会議の活動と「他市との交流活動」についての話し合い

15分ほど休憩をとった後、後半は子ども会議委員とサポーターのみで、今後の子ども会議の活動と「他市との交流活動」についての話し合いを行いました。

まず、今後の子ども会議について、今年度の活動を振り返りながら、スケジュールや活動内容全般についての意見をもらいました。

子どもたちからは、

- ・昨年度と同じように3月末に、市長への報告会を行いたい。



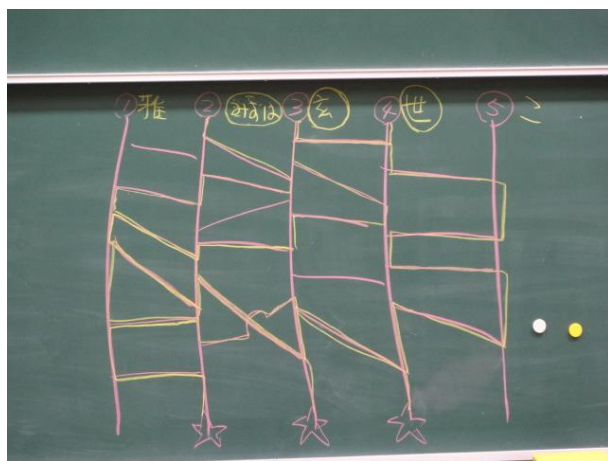
- ・11月の「子どもの権利の日」イベントでの意見発表については、今までのように1年ごとで区切るのではなく、2、3年間の継続した活動の集大成を発表するのも良いと思う。(イベントは「中間報告」という形で毎年行う。)
- ・ねぶた祭りでの子どもの権利普及啓発活動は、来年度も継続して行いたい。
- ・「他市との交流活動」は継続的に行いたい。
- ・スケジュール(活動回数や活動時期など)については、今までと同じくらいが良いと思うが、2、3年間の継続した活動を行うなら、冬休み期間にも活動した方が良いと思う。
- ・子ども会議の全員で雪かきのボランティアをしたい。
- ・各学校の文化祭などに「子ども会議」のブースを出して、子どもの権利の普及啓発活動をしたい。

などの意見が出ていました。子どもたちからの意見を参考にして来年度以降の子ども会議の運営をしていきたいと思えます。

次に、以前から子ども会議で話題になっていた、子どもたちが今後の青森市子ども会議の活動に活かしていくために、他市で青森市子ども会議と同じような活動を行っている子どもたちとの交流を行う、「他市との交流活動」についての話し合いをしました。

今年度は、神奈川県川崎市の「川崎市子ども夢パーク」内で行われている「川崎市子ども会議」を訪問することになりました。しかし、参加を希望した子ども会議委員は5名いたのですが、残念ながら3名しか参加することができないので、今回の話し合いでその3名を決めることにしていました。

子どもたちの話し合いによって参加者を決定できればよいのですが、今回の会議に来られなかった参加希望者がいたこともあり、なかなか決めることができませんでした。そこで、子どもたちの了解を得て、今回は「あみだくじ」で参加者3名を決定することにしました。子どもたちと事務局が立会人となり、厳正なるくじの結果、参加者3名が決定しました。今回はずれてしまった子ども会議委員はとても残念ですが、来年度も他市との交流活動を継続して行う予定としているので、そのときにまた参加してもらえればと思います。(追記：1名が参加辞退したため、後日、残りの2名で再びくじ引きを行い、代替りの参加者1名を決めました。)



以上で第11回の子ども会議は終了しました。次回会議は3月に行われる予定です。